

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2022年 2月 9日	
所属部局・職	霊長類研究所修士2年
氏名	沼部令奈

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
京都府、美山
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
基礎フィールドワーク実習 (積雪期)
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
2022年 2月 2日 ~ 2022年 2月 4日 (3日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究所 伊谷教授
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くて結構です。
<p>本実習は、積雪期の山におけるフィールドワークの基礎を学ぶとともに、シカ狩りについて知識を深めることを目的とした。</p> <p>■ スケジュール</p> <p>2022/2/2 午前: 移動 午後: キャンプ</p> <p>2022/2/3 午前: キャンプ地の片付け、狩猟体験 午後: 狩猟体験、シカの解体</p> <p>2022/2/4 移動</p> <p>■ 実習内容</p> <p>美山に到着後、キャンプ地に適した所を探しつつ山を歩き、川が近く比較的平らで開けた場所にキャンプサイトを設置した(写真1,2)。日没前にテントを張って寝る場所を確保し、水汲みや夕食準備を開始し、2~3時間ほどで食事をとることができた。初日の経験から、キャンプサイトの準備の仕方、事前準備の大切さ、雪上での火起こし・焚火の維持の難しさなどを学んだ。また、寝袋やエアマット、防寒具等の寒冷地用装備のおかげで、大きな問題なく一夜を過ごすことができた。</p> <p>2日目は美山地区でシカの狩猟・解体を見学した。狩猟体験・宿泊をした田舎のスタッフの方々は、夏は野菜や米の栽培・収穫を行い、冬は狩猟によりシカを狩って食べたり、加工して販売したりする自給自足の生活をされているそうである。実習前に調べたところ、日本では野生動物による獣害が大きな問題となっている地域があり、大きな被害を与える動物の一種にシカが挙げられることを知った。また、野生のシカは、過去には保護されていたこともあるが、現在は数が増えすぎたため生息</p>

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

域の植物の生態系を破壊し、畑に降りる等の農作物への被害も多く、報奨金を出して獣害対策をしている地域もある。そのため、シカ狩りはその肉を食用とするためだけでなく、山の生態系を守るためのものでもあったと考えられ、田舎の方からも同様の旨をお聞きした。シカ狩りでは、まず猟犬（写真3）が山に入り、シカを見つけたら吠えさせて、シカにヤマを駆け下りさせ、猟師はシカが下りてくる場所を予想し、発砲が許可された領域に来るのを待って猟銃で撃つ、という流れで行われていた。午前の狩りでは1頭、午後の狩りでは2頭のシカを狩った。シカは多くが川の流に沿って逃げることが多いため、仕留めた後すぐに腹部を開き内臓の大部分を摘出し、川で血を洗い流したのちにトラックまで人力で運び、解体所まで運搬した。解体は、午前に狩った後数時間（基本的には一晩であることが多い）シカの体を流水にさらし、血抜きをしてから皮を剥ぎ、精肉用ブロックに分けた。今まで解剖で扱ったことのある動物に比べサイズが大きかったことと、解剖ではなく食用の解体であったため、新鮮に感じるが多々あった。解体用包丁の使い方を教えていただき、実際に解体をしていく経験を通して、解体には、シカの骨や筋肉の構造に関する知識が必要であることを知った。本実習で目的としていた2点について、3日間の実習を通し多くのことを学んだ。フィールドワークに行く際には、この経験を活かし事前準備を念入りにして臨もうと思っている。また、日本に住んでいるにも関わらず、獣害や狩りについてはほとんど知らないことばかりだったため、本実習はこれらについて関心を持つ良い機会であった。



(写真1) 各自の荷物とテント等を背負い、キャンプ地まで移動する様子



(写真2) 美山に設置したキャンプサイト内のテント

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



(写真 3) シカ狩りのために訓練された猟犬



(写真 4) 積雪期の美山の様子

6. その他 (特記事項など)

本実習は、PWS の支援を受け、実施することができました。PWS プログラム、引率して下さった先生方、及び田歌舎のスタッフの皆様にご感謝申し上げます。

※メンター (PWS プログラム指導教員) が確認済の報告書を【[report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp](mailto:report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp)】宛にご提出ください。